# 白ネギのチェーンポット直置き育苗による7月収穫作型

### 1 情報・成果の内容

### (1) 背景·目的

鳥取県の高標高地では、チェーンポット越冬大苗ベンチ育苗による7月収穫が一部導入されているが、育苗期間が長く、また極端な疎植で収量が低い事が問題となっている。今回、チェーンポット直置き育苗での7月下旬収穫を検討したので紹介する。

#### (2)情報・成果の要約

- 1) 12月~1月上旬に播種し、直置きを行う。
- 2) 小面積で育苗できるロングピッチチェーンポット「LP303-10」が利用可能。
- 3) LP303-10 に 3 粒播種をすることで肥大性と収量性が両立する。
- 4) 下図1の作型表をおおよその目安とする。

凡例:○播種 ●播種+加温 ▲定植 □収穫		1月		2月	]	3	月	4,5	3	5月		6月	7)	<b></b>	8月	9	月	10月	11月	12月
━ ベンチ育苗 ━━直置き育苗 ━━ほ場	上	中口	타	中	下	Ŀ	中下	上中	下	上中	F上	中下	上中	下	上中口	下上 5	‡ 下	上中下	上中下	上中下
チェーンポット越冬大苗ベンチ育苗(20本/m)	F	H	Ŧ	-			+											0	0	
チェーンポット直置き育苗(20本/m)	•		┪-			-+	-	<b>A</b> -			+		<u> </u>				Τ			•
チェーンポット直置き育苗(30本/m)	•		-†-			-+	+				+		+	-						•

図1 作型表

## 2 試験成果の概要

#### (1) チェーンポット直置き育苗試験

チェーンポット直置き育苗について、適する播種期、資材、播種粒数について、 それぞれ試験・検討した結果を以下に示す。品種は'夏扇パワー'(サカタのタネ)を 用い、施肥は、日野郡夏どり作型に加えて、生育を促すために生育中盤以降に燐硝安 加里 S604 を  $20 \log/10a \times 3$  回施用した。(N:P205:K20=22.4:28.1:24.8)

#### 1)播種期

育苗期間短縮のため適する播種期の検討を行った。その結果、直置き育苗では11月中旬までに播種をすると、倒伏の危険性があるため強度な剪葉が必要となり、定植後の生育停滞がみられた(2019・データ省略)。12/10 および 1/9 播種区では、剪葉しても生育停滞なく栽培可能で、収量性にも問題は無かったことから、播種期は概ね12月~1月上旬頃が適すると考えられた(表 1)。

久	0.理区					上物収量		平均 一本重	2 L率	2L +L率
播種期	育苗法	剪葉	育苗資材	播種粒数	(本/a)	(kg/a)	(箱/a)	(g)	(%)	(%)
10月16日	ベンチ	無	CP303	1	1454.5	325.4 a	72.3 a	223.7 a	99.0	99.0
10月16日	直置き	有	CP303	1	1530.3	307.0 a	73.5 a	201.0 ab	89.4	99.0
11月13日	直置き	有	CP303	1	1545.5	311.4 a	76.1 a	201. 7 ab	96.1	98. 9
12月10日	直置き	有	CP303	1	1560.6	309.7 a	75.4 a	199.0 ab	91.4	98.0
1月9日	直置き	有	CP303	1	1651.5	313.0 a	79.4 a	189.4 b	90.9	96.4

※同一符号間はTukey-Kramer法により5%水準で有意差なし

#### 2) 使用する資材

 $CP303 \times 1$  粒播種と、同等の栽植密度の  $LP303-10 \times 2$  粒播種を比較したところ、収量に差は見られず、12 月~1 月播種で LP303-10 の使用は可能であると考えられた(表 2)。

表2 資材別収量調査(2020年7月20日収穫)

	処	理区			上物数量	平均一本重 2L率 2L+L率			
播種期	育苗法	育苗資材	播種粒数	(本/a)	(kg/a)	(箱/a)	(g)	(%)	(%)
10 日 10 日	古黒キ	CP303	1	1318.2 a	210.9 a	58.7 a	159.6 a	68.6	96.7
12月10日	旦旦ろ	LP303-10	2	1500.0 a	234.3 a	65.2 a	156.2 a	63.8	94.0
1 8 0 8	古里と	CP303	1	1340.9 a	232.7 a	61.7 a	172.9 a	76.5	97.4
1月9日	直置き	LP303-10	2	1272.7 a	195.2 a	54.4 a	152.7 a	59.7	92.6

<sup>※</sup>同一符号間はTukey-Kramer法により5%水準で有意差なし

#### 3) 栽植密度(播種粒数)

LP303-10 の播種粒数を検討したところ、2 粒播種(約 20 本/m)では、肥大性がより優れ、2L 率が高い傾向だった。他方で収穫本数が少なく、上物収量は低くなった。3 粒播種(約 30 本/m)では、1a 当たり 100 ケース程度の収量が得られ、2L 率や 2L+L 率が高く肥大性も申し分ないと考えられた(表 3)。

表3 収量調査(2021年7月19日収穫)

	処	理区			上物本数		平均一本重	2L率	2L+L率
播種期	育苗法	育苗資材	播種粒数	(本/a)	(kg/a)	(箱/a)	(g)	(%)	(%)
12月15日 直	古黒き	LP303-10	2	1424	266.1 b	71.3 b	187. 2 a	89.2	97. 5
	臣 巳 さ	LP303-10	3	2394	359.5 ab	99.9 a	150.2 a	54.5	93.0
1月6日	直置き	LP303-10 LP303-10	2	1561	262.6 b	72.1 b	168.7 a	75.0	94. 1
1万0日	日直ろ	LP303-10	3	2530	408.8 a	114.1 a	161.4 a	70.4	96.3

<sup>※</sup>同一符号間はTukey-Kramer法により5%水準で有意差なし

#### 3 利用上の留意点

(1) 普及の対象地域

日野郡等の標高の高い地域

#### (2) 注意事項

- 1) 品種は '夏扇パワー'等、早期肥大性の優れるものが適する。
- 2) 育苗箱は、水稲大苗用など、底面の隙間が広く多いものを利用する。
- 3) 標高 550m の圃場での結果であり、気候に応じ栽培時期の調整が必要である。
- 4) 施肥は夏どり慣行を目安に試験したが、適切な施肥量は検討の余地がある。

#### 4 試験担当者

 日南試験地
 研究員
 前田
 真吾

 試験地長
 小谷
 和宏